

教科等研究会（中学校美術部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

つなぐ・つながる造形教育

自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童生徒の育成
児童生徒が安心して制作できる題材と授業展開の工夫

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6/9	25人	龍野小学校	8/18	龍野小学校	実技指導案検討 研修会 (日本画)	10/30	津森小学校	上土井恭子 教諭	1/26	益城中学校	嘉古田剣吾 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマについて

昨年度は「第64回熊本県図画工作・美術教育研究会 宇城・上益城ブロック大会」に向けて宇城地区と合同で研究テーマに沿って研究を進めた。今年度も引き続き「つなぐ・つながる造形教育」をテーマに研究に取り組んだ。研究大会では「つなぐ・つながる」の定義を次のように示している。

○「つなぐ」とは、教師が子どもと対象を結び付けて造形活動を設定すること

○「つながる」とは、その中で子どもが主体的に他者や他のものとのつながり、造形力を高め豊かな心を培っていくこと

とある。つなぐ・つながる造形教育を通して美術作品をはじめ教師と生徒、友だち同士、地域社会等との「つながり」が深まることが期待されている。

また、「自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童生徒の育成」「児童生徒が安心して制作できる題材と授業展開」に迫る研究の視点は以下の通りである。

- 1 児童生徒が自信を持って制作に取り組める題材の工夫
- 2 児童生徒が自信を持って制作に取り組める授業展開の工夫
- 3 自分の思いを表現できる、自由に言える人的環境や学習空間づくり

② 実技研修について

本年度の実技研修では、嘉島町で「日本画工房浮島館」を開かれている日本画家の大塚浩平さんをお呼びし、日本画の材料や日本画制作の簡単な工程などを学び研鑽を積んだ。丁寧な説明をいただきながら、はがき大ほどの画面に、ほおづきやブドウ、オクラなどの植物をモチーフにし、制作を行った。授業にも取り入れることが可能な簡単な工程で制作を行うことができ、日本画の技法やモチーフの捉え方などを学ぶことができた。完成した作品は額装をし、参加者の様々な表現もまた互いの学びとなった。



講師の日本画家
大塚浩平さん



それぞれの作品を並べて
講評会を行った



完成した作品はすべて黒縁
の額装をし持ち帰った

③ 授業研究について

本部会では、小学校図工部会、中学校美術部会合同で2回の授業研究会を行った。小学校からは津森小学校の上土井恭子教諭、中学校からは益城中学校の嘉古田剣吾教諭が研究授業を実施した。校種の異なる授業を参観し、授業検討を行うことで、新鮮な意見交換やそれぞれの立場では気づかなかった新しい視点での授業づくりがなされることに大きな意義を感じた。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 校種を越えた授業を参観することができ、互いに新鮮な意見を持ち授業づくりに臨むことができた。
- 昨年の研究に引き続き同じテーマで研究を行ったことで、共通した実践を継続して行うことができた。
- ICTの活用について、タブレット端末が導入されて数年が経ち、普段の授業でも調べたり表現や鑑賞に活用したり、他の文房具と同じように自然と扱う子供の姿が見られるようになった。
- 会員には経験年数の幅があり、経験の浅い会員の普段の授業へのアドバイスや、互いの実践報告など回数を増やしていきたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

今回の授業は、東京オリンピックのシンボルマークの作者で知られる野老朝雄さんのデザインの「美」と「用」の工夫について課題解決していくものである。個別最適化した授業の在り方について、これからの授業の形を提案授業として行われた。熊本の学び推進プランに示されている課題のうち、図工・美術科の課題として、

- ・各学校で育成を目指す資質・能力が、教職員間ではもとより家庭や地域と共有されていないこと。また子供たち自身が把握していないこと。
- ・各学校の教育目標と日々の授業との関連性が少ないこと。

以上の2点を挙げ、これらの課題から美術の授業において目指すこととして以下の7点があげられた。

- 1 主体的な学びのための基礎的な知識の習得
- 2 制作にかかる時数から自分の技能に応じてプランニングする力を育てる
- 3 学習指導要領の趣旨を十分理解し、生徒に十分な学習経験を提供する
- 4 個別最適化した活動の設定を積極的に導入
- 5 ICT活用環境の促進と積極的な活用
- 6 評価の妥当性をあげられるよう、評価材料の収集と精選
- 7 主体的な学びとなる教材理解と設定・開発

学習構想案

(1) 目標 作者のデザインに対しての思いを考察することを通して、デザインに対する考え、メカニズムを理解し説明することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	15分	1 デザインの意味について振り返る 2 本時の学習のめあてについて知る。 3 野老朝雄さんについて知る。	○既習事項をおさらいし、本時のめあてとなる問いの視点を与える。 ○野老朝雄さんについて、基本的な知識を知ることによって作者に興味を持つ。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【本時の目標 (めあて)】 作者のデザインに対して、その工夫について考察し、メカニズムを説明することができる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【学習課題】 野老朝雄さんはデザインの“美”と“用”をどのように工夫したのだろうか。 </div>	
展開	20分	4 自分に適した方法で課題を解決する。(10) ・先生の話聞く。 ・タブレットにある情報を使う。(ネット検索禁止) ・何人かで協働する。 ・そのほかの方法をとる。 ◇タブレットの提出箱に考えを入れる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【期待される学びの姿】 課題解決に向けて自分にとって最適な課題解決方法を選ぶことができ、必要ならば他者の意見を参考にし、自分の意見に取り入れようとしている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 《問1》野老紋の工夫について、気が付いたことを答えなさい。 </div> 5 問いのカードを配布し、ロイロノートに答えを提出する。(5) 6 生徒の回答からまとめる(5)	○授業のルールとして、課題解決のための時間とすることを約束する。 ○対話的な学びから、自分の気付かなかったよさや表現の意図、創造的な工夫などを発見する。 ○タブレットの機能を活用し、作品の編集機能を使ってもよいとする。 ○提出箱への回答は供覧可とし、いつでも見られるようにしておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【具体の評価規準】思・判・表 ○「美(形・色の工夫)と用(使う側の立ち位置に立ったデザイン性)を関連付け、そこに自分の価値観を踏まえた回答がされている(ロイロノート) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【到達していない生徒への手立て】 ○机間指導も併せて行い、生徒の様子を見ながらヒントになる声掛けを行う。 ○ロイロノートを活用し、問いのカードへ記入させ提出させる。 </div>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【まとめ】野老紋は、日本の伝統的文様を活かしながら、作品が(点・線)対称になるように工夫されていて、どう組み合わせても形がつながるような仕組み(メカニズム)になっている。 </div>	

終末	15分	7 学習課題に対して学びを深めるために、問いを追加する。	○本時の学びの成果や課題をより深めるための追加発問をすることで、学びの深化をはかる。
		《問2》なぜ、野老朝雄さんはこのようなデザインにしたのだろう？ あなたの考えを具体的な例を挙げて述べなさい。	○時間が押した場合は、家庭で保護者ともデザインについて話をしてよいとする。



《授業後の感想より》

- 自分も中学生に戻ったような気持ちで楽しく授業を参観させていただきました。本日の題材にされていた『野老紋』、大変興味深かったです。課題解決も方法も、子どもたちが自分で選択したり、ロイロで編集したりでき、主体的な学びにつながっていたと思います。先生が、授業の最後に子どもたちに伝えられていた「あなたたちがどう価値づけるかが大事」という言葉が心に残りました。小学校と発達段階は違いますが、小学校でもこのような授業が行えたら、と思いました。
- 「中学校の教科担任制」の良さをすごく感じました。やはり専門の先生が授業をされるとハイレベルな授業を受けることができ、学校によっては専門外の先生が担当せざるを得ないところもあり、この差はとても大きいと思います。小さい学校だからといって専門外の先生が受け持たなければならない状況を改善してほしいと思いました。今日の授業で提案されたことはとても納得できる部分も多く、これからどう授業を組み立てていくかを自分なりに志向してみようと思いました。
- オリンピックのマークは知っていましたが、作者である野老朝雄さんのことやデザインについての工夫は知らなかったので私自身、大変勉強になりました。また、複線型の授業について個別最適な学びをさせたいと思いつつ、学習規律を徹底させなければならないことで悩みもありましたが、今回の授業が解決の糸口になりました。そのほかにも子どもたちを引きつける導入など、たくさん学ばせていただきました。